

論 說

年 頭 の 辭

星 合 正 治

昭和 26 年を迎えるに當り、謹んで年頭の御挨拶を申述べたい。

本年はわれわれにとつて、眞に希望に満ちた年である。第一に待望の講和條約が結ばれる時機になつた。終戦後、過去 5 年間、占領下の日本は更生の母體中にあつた。それが今年はいよいよ文化國家として自ら呼吸し、自ら食料をとつて獨立した機能發揮する、いわば呱呱の聲を擧げる年である。

第二にわが工業界が本格的活動を開始する年と見ることもできる。昨年は、終戦後の困亂した經濟界が、下劑としてのドッジ案を呑んで、一應攪亂菌を排出した後の粥腹の時期であつた。身體の調子が立直つて、本年からは平常食がとれる状態にならう。ただし、調子がよくなつたからといつて、暴飲暴食は慎まねばならない。

第三に、さらに手近のわが生産技術研究所は、本年四月をもつて從來の第二工學部から全面的に轉換を完了、いよいよ純研究所としての活動を一ぱいに開始する。われわれとしては、本年こそは二重、三重に明るい希望の年といえる。

由來、大和民族は決して好戦民族ではない。自然の愛好は日本人の天性であり、平和を愛する自由人たるの素質において、日本人が他の國々の人に優るとも、劣るものとは思われない。事實、過去の歴史に徴しても、政變の過渡期以外は平和愛好國民として、大いに文化を發展させてきているのである。飛鳥、平安兩期はもとより、現在の國民文化の基は、大概却つて戰國時代に發してさえている。特に住時の武將連にしても、その後の國民に人氣のある人達は、いずれも文化愛好者であつた。

例えば本邦の産んだ稀世の英雄秀吉の如き、むしろ偉大な文化人と見られる人で、小田原陣、九州陣の如きでさえ、その獨自の手腕を發揮して武力戦によらず、外交戦で事を治めているのである。刀劍狩の如き、城割の如き、檢地の如き、茶道奨勵の如き、その他すべて大衆を目當の文化政策で終に絢爛たる桃山時代を現出させたのであつた。本邦が海外に好戦國民と恐れられるようになったのは、むしろ明治以後のことに屬する。われわれは明治維新によつて形式的には封建武斷政治から轉換した。そして、昭和の大戦を経て、精神的にもその本領たる平和な文化國家への脱皮が完了したといえるのである。

今後は本邦の人口問題から、好むと好まざるとにかかわらず、工業立國の外はない。しかも、今度は海外から好戦國としての色眼鏡で見られないだけ、それだけわが工業製品の活動の舞臺が戦前にくらべていちじるしく擴張される氣配がある。自ら東洋における最優秀な工業國として内容を充實し、信用ある製品を海外に送らねばならない。made in occupied Japan から made in Japan への轉換は、舊時代への復讐であつてはならない。

年頭の句に「曉天の黄や紫や初水手」というのがある。われわれは、明るい希望に満ちた新年を迎えるに當り、清新明朗な氣持で大いに張切ることを誓いたい。

第 3 卷 生産研究 1 月 號 日 次 第 1 號

口 繪 電子顯微鏡室眞集	
銅の單結晶.....	谷 安 正... 1
織 維.....	芦沼寛一・古川 浩... 2
鐵の不動態被膜.....	久松敏弘・山田龍男... 3
モレン化成表面の立體寫眞.....	江口雅彦・池谷光榮... 4
論 說	
年頭の辭.....	星 合 正 治... 5
調 査	
スペクトル應用の進歩.....	藤 森 榮 二... 6
研 究	
ヴェイオリンの製作.....	糸 川 英 夫 熊 谷 千 尋 久 松 敏 弘... 11
鐵さびとその対策.....	山 西 村 源 六 松 田 浩 一 村 源 六 郎... 17
防振ゴムの性質.....	西 村 源 六 大 丸 澤 眞... 26
金屬の内部摩擦とヤング率の測定.....	丸 山 茂... 30
解 說	
現代建築の美.....	池 邊 陽... 20

トピック	
結晶内の規則性.....	堀 田 正 之... 24
鹽 筆	
ゲーム差と勝率.....	三 木 五 三 郎... 25
鹽 報	
1 スラッグの鹽基度の新しい考え方.....	松 下 幸 雄... 10
2 纖維構造と吸振效果.....	古 川 浩... 19
3 齒車ポンプの性能實驗と考察.....	宮 津 純 名... 34
4 齒車ポンプの流動解析.....	宮 津 純 名... 34
5 齒車ポンプのかみ合いによる流動.....	宮 津 純 名... 35
6 回転圓板の洗滌摩擦抵抗.....	宮 津 純 名 豊 倉 富 太郎... 65
生研ニュース.....	36
編 集 後 記.....	36

技術史ノート 本號は編集の都合上休みました。次號から御期待下さい。